



# 久井公民館だより

平成26年 12月1日発行  
発行/三原市久井公民館 〒722-1412 三原市久井町和草614番地 No. 113号  
電話・FAX/0847-32-7139

今年も残すところ一か月となりました。何かとお忙しくされていると思います。今年も久井公民館の運営にご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。来年もよろしくお願ひいたします。

皆さま 体調に気を付けられて、お元気で新年をお迎えくださいね



## 初心者の生け花教室

- 日時 : 12月16日(火)9:30~11:30
- 場所 : 三原市久井公民館 和室
- 講師 : 仲戸 貞實さん
- 参加費 : 800円(受講料含む)
- 持参物 : 花器・剣山・花ばさみ
- 定員 : 15人(乳幼児連れの参加可)
- 締切り : 12月12日(金)まで
- 申込先 : 三原市久井公民館  
TEL0847-32-7139



## 子ども体験講座「けん玉の技に挑戦！」しました。

講師に習ってビュン。もう一度ビュン。何度か挑戦しているうちに「はいった〜。」「はいった〜。」子どもたちの歓声が続きます。「またきます。」の言葉どおりコーナーに何回も来て楽しむ子どももいました。最高22回すごい!!子どもたちの身体のバランスと集中力はすごいですね〜。周りを生き生きと元気にしてくれるパワーもありました。



## 講座ワンポイント

### 「庭の手入れ(剪定)講座」松とヤマモモの剪定

- 松……………全部いっぺんに剪定しないで、先を考えながらする。
- ヤマモモ……込み合った枝や樹形から外れて伸びた枝を剪定する。



## 杭・久井・くい コーナー

### 「三原市久井歴史民俗資料館」の民俗資料から生活文化について触れてみましょう。

No8 きずるす どずるす とうす  
農具7【木摺臼・土摺臼(唐臼)】



籾摺りは、籾から籾殻を除去して玄米にする作業です。弥生時代は、つき臼に籾を入れて杵でついていました。平安時代には、木製の木摺臼(木臼)が使われていました。松の木などで作られ、上臼と下臼からできていて接触面は斜めに削られ、中心から外側に向かって溝が刻まれています。上臼は中心に穴が開いていて、下臼の心棒を通すようになっています。使うときは、上臼を左右交互に半回転させると籾は臼の中に落ち、接触面の溝でこすられて、摺られた玄米と籾殻は臼の周りに落ちます。

江戸時代には、中国から伝来した土摺臼(土臼)が広まりました。竹で作った円柱形のかごや木の桶の中に、粘土を固く詰めて上臼と下臼を作ります。上下の臼の接触面には、薄く割った檜の木などの板(歯)を規則正しく埋め込んでいます。粘土には、ひび割れ防止に苦汁を混ぜて、いつも湿った状態にしています。使うときには、把手か引手を持って上臼を一定方向に回します。最初は人が直接手で回転させるものですが、後に※遣木式(クランク式)のものも使われました。それまで使っていた木摺臼よりも能率が良く、少しずつ広まってきましたが、製造が難しく米が砕けやすいなどの理由で、地域によっては木摺臼が昭和時代初期まで使われました。

今回は農具8を紹介します。

やりきしき  
※遣木式(クランク式):往復運動を回転運動に変える、またその逆を行う装置。

